

A工区地質記載シート

A5-請負-計測工(地質)-131015

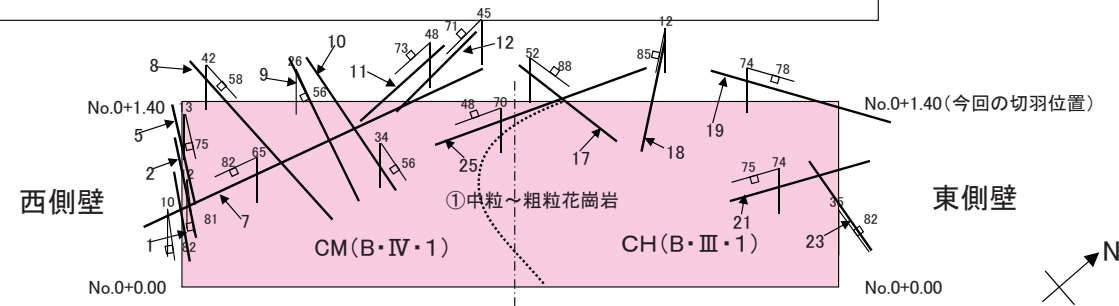
シート番号	500mアクセス北 設備横坑1	日時	2013/10/15 15:30~17:00	位置・深度	500mアクセス北 設備横坑1 G.L. -496.5 m~G.L. -500.2 m	観察・撮影者	
-------	--------------------	----	---------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

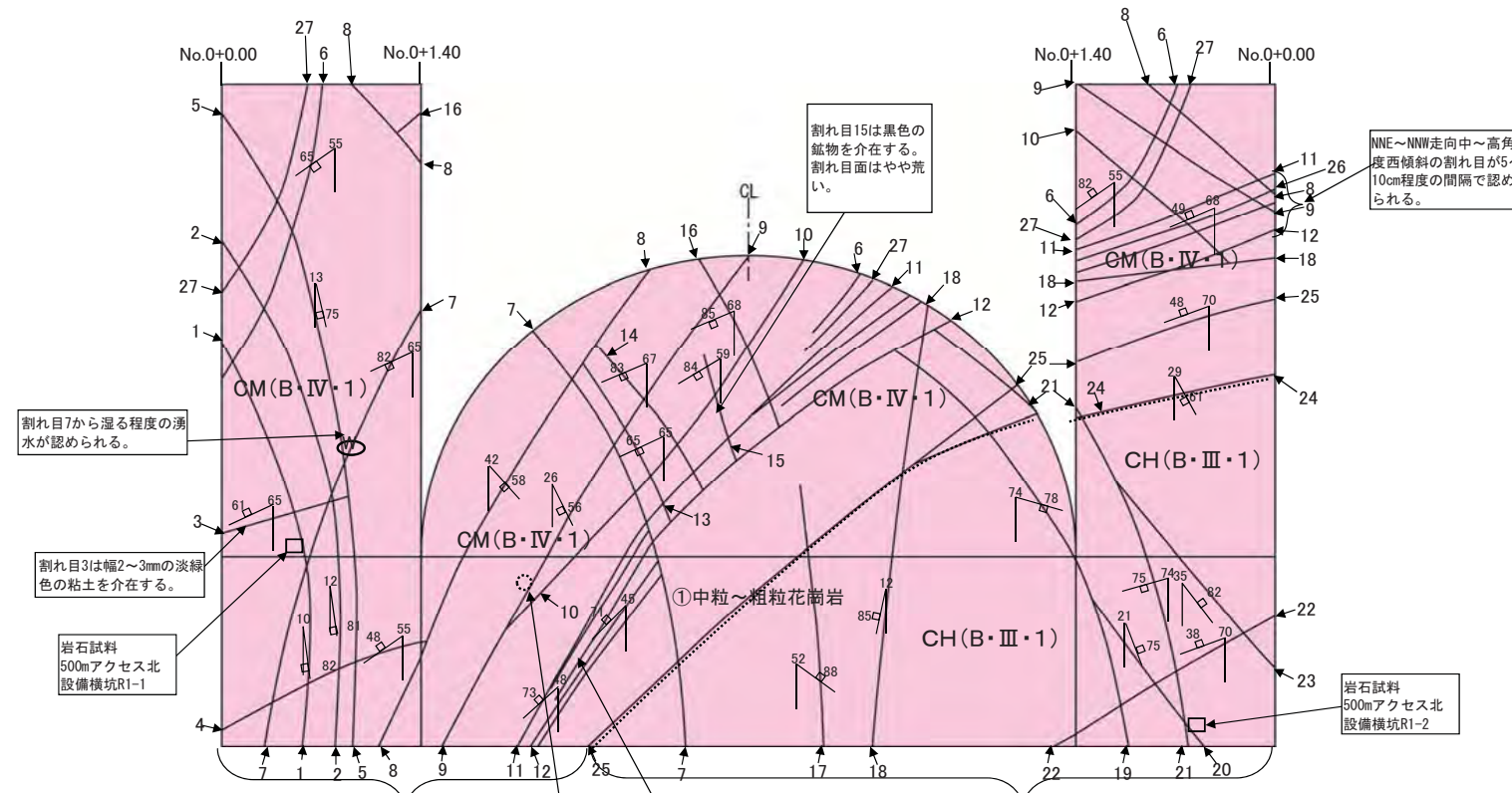
請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例

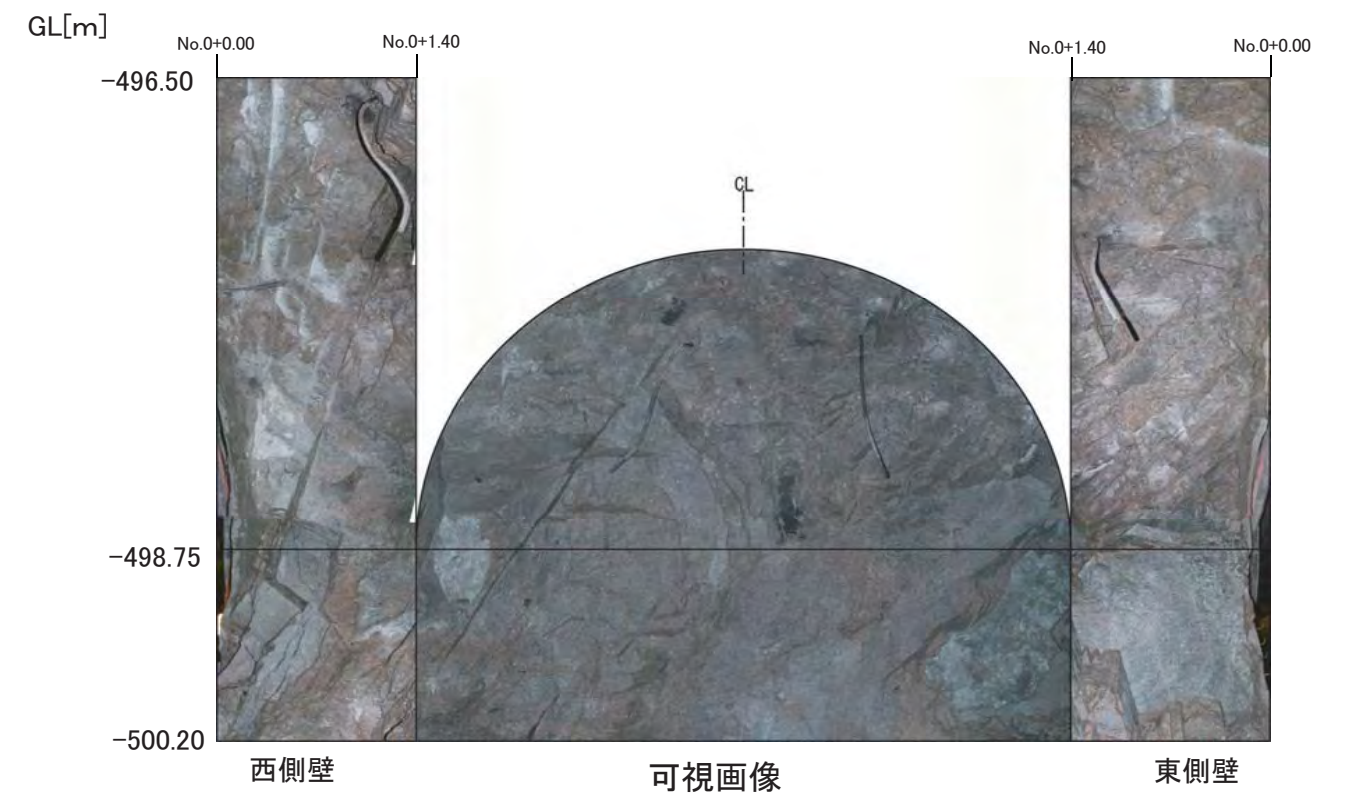
	花崗岩		割れ目		割れ目の走向傾斜		岩級区分境界		湧水
--	-----	--	-----	--	----------	--	--------	--	----



スライス断面図



スケッチ



可視画像

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -496.5m~-498.75m CH/CM G.L. -498.75m~-500.2m CH/CM
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (橙色、淡桃色)	RMR値	G.L. -496.5m~-498.75m 54 G.L. -498.75m~-500.2m 57
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北設備横坑R1-1 (花崗岩)、500mアクセス北設備横坑R1-2 (花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	-
湧水	湿る程度		

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN49W方向である。横坑観察は切羽から1.4m離れた場所より目視観察を実施した。
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々にφ10mm程度の大きさのカリ長石が認められる。
花崗岩は全体に変質の程度は弱いほとんど認められず、黒雲母などの有色鉱物はほとんど残存している。
割れ目周辺の花崗岩には幅10~70mm程度が橙色を呈する箇所が認められる。
割れ目は、割れ目25付近から西側では、NW~WNW走向中~高角度南傾斜と、NNE~NNW走向中~高角度西傾斜とNNE走向高角度東傾斜が主体で認められ、他に、ENE走向中角度南傾斜が認められる。
割れ目25付近から東側では、NE走向中角度西傾斜と、WNW走向高角度北傾斜が主体で、他に、NW走向高角度西傾斜やNE走向高角度南~東傾斜が認められる。

割れ目の介在物としては、カルサイト、クロライト、淡緑色の粘土、黒色の鉱物が認められた。
湧水は割れ目7から湿る程度で認められた。
岩級区分は、割れ目25付近から東側は、割れ目間隔が概ね20~60cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・III・1)級と評価した。割れ目25付近から西側は、割れ目間隔が6~15cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CM(B・IV・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

A5-請負-計測工(地質)-131016

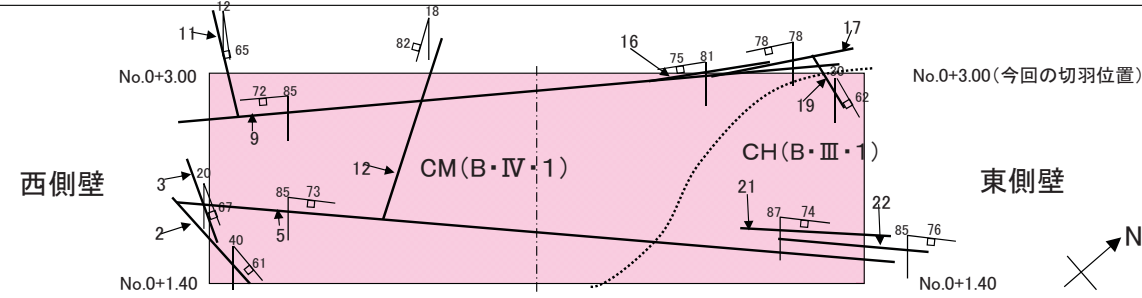
シート番号	500mアクセス北 設備横坑2	日時	2013/10/16 9:30~11:00	位置・深度	500mアクセス北 設備横坑2 G.L. -496.5 m~G.L. -500.2 m	観察・撮影者	
-------	--------------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

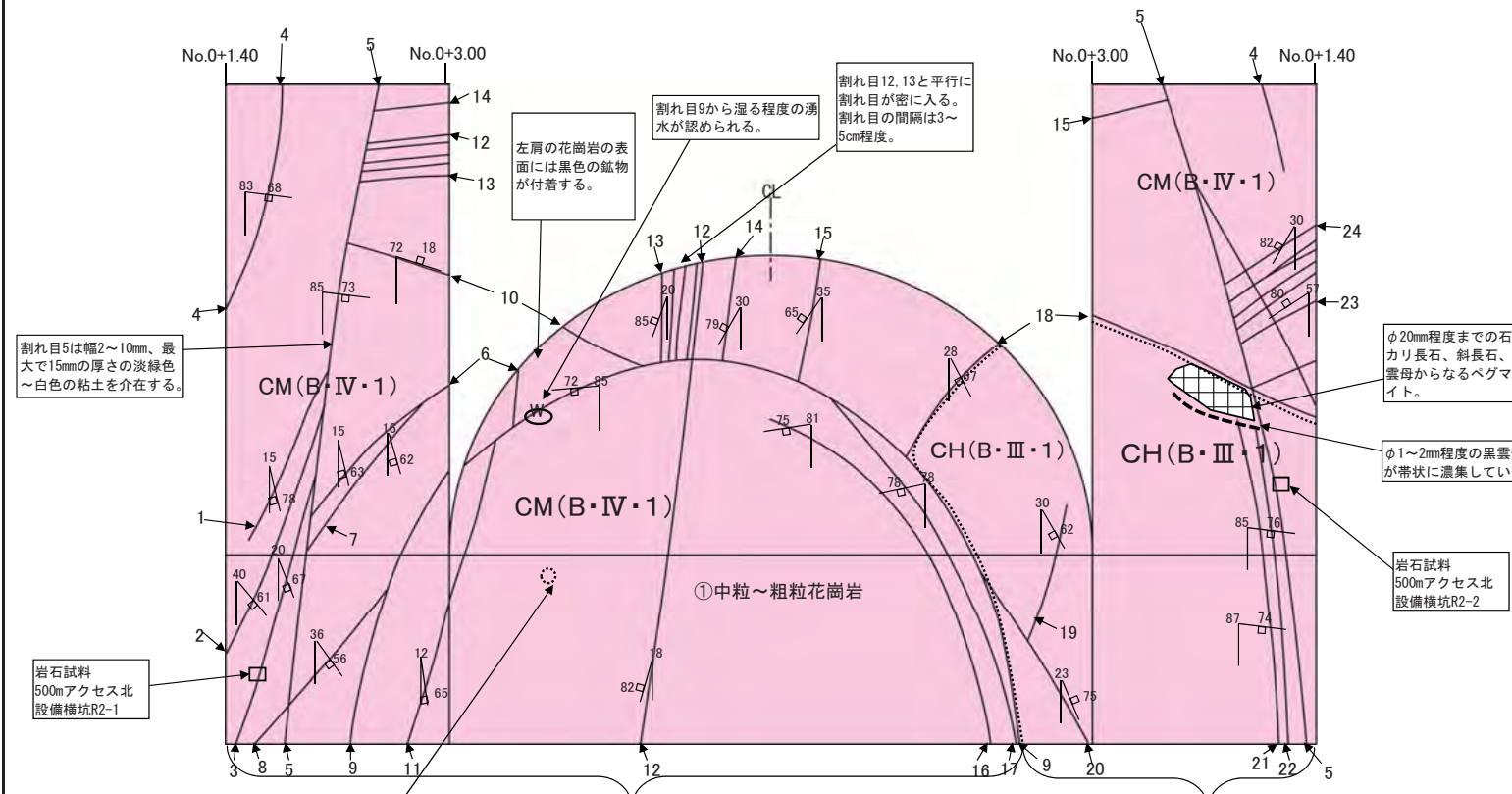
請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例

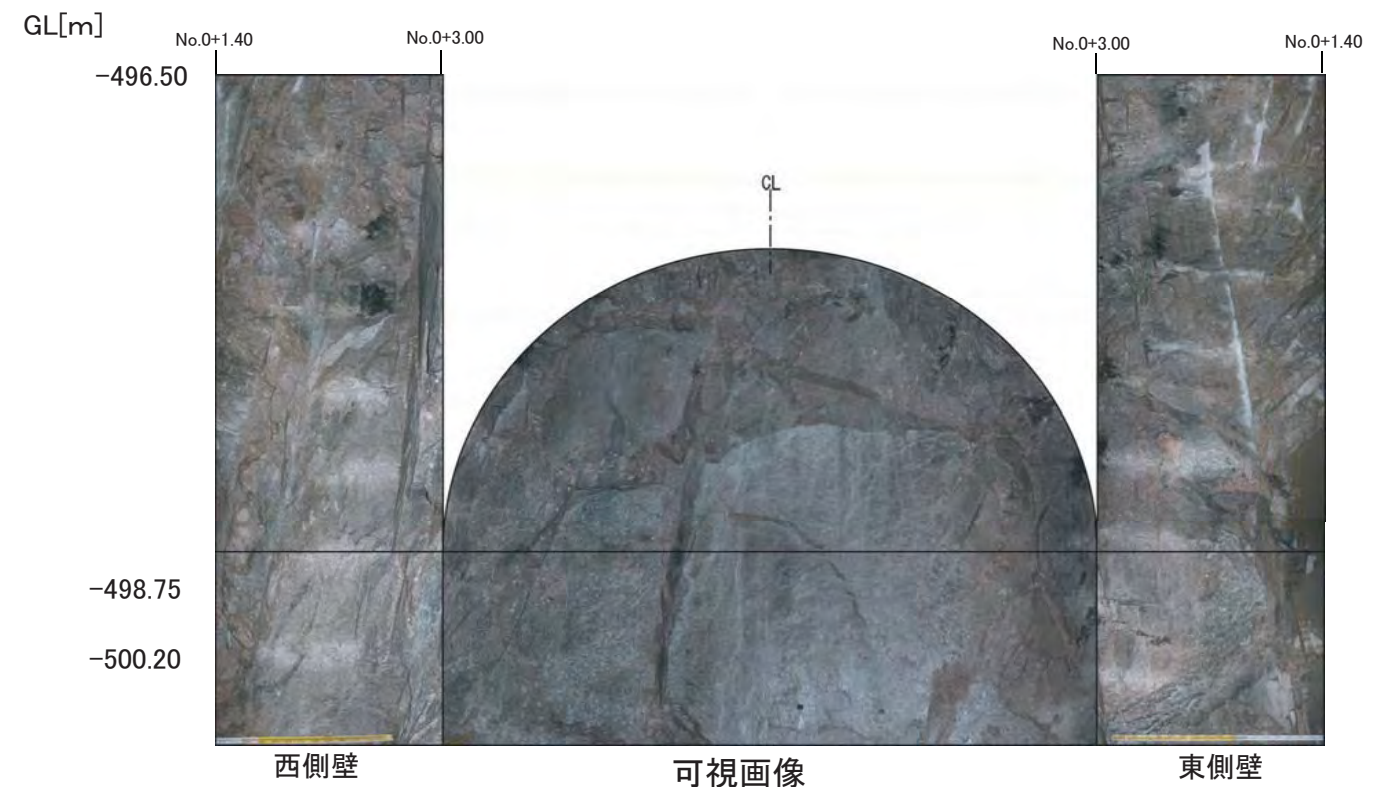
	花崗岩		割れ目		割れ目の走向傾斜		岩級区分境界		湧水		ペグマタイト		黒雲母の濃集
--	-----	--	-----	--	----------	--	--------	--	----	--	--------	--	--------



スライス断面図



スケッチ



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -496.5m~-498.75m G.L. -498.75m~-500.2m	CH/CM CH/CM
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (橙色、淡桃色)	RMR値	G.L. -496.5m~-498.75m G.L. -498.75m~-500.2m	54 57
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北設備横坑R2-1(花崗岩)、500mアクセス北設備横坑R2-2(花崗岩)	
変質	1~2	採水試料番号	-	
湧水	湿る程度			

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN49W方向である。横坑観察は切羽から1.6m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々にφ10mm程度の大きさのカリ長石が認められる。東側壁にはφ20mm程度までの石英、カリ長石、斜長石、黒雲母からなるペグマタイトが認められる。花崗岩は全体に変質の程度は弱いかほとんど認められず、黒雲母などの有色鉱物はほとんど残存している。割れ目周辺の花崗岩は幅20~80mm程度が橙色を呈する。割れ目の走向傾斜は、NE走向高角度南~東傾斜と、WNW走向中~高角度南傾斜が主体である。他に、NE走向低角度北傾斜、NNW走向高角度西傾斜、WNW走向高角度北傾斜、NNE走向高角度西傾斜が認められる。

割れ目の介在物としては、カルサイト、クロライト、淡緑色~白色の粘土が認められた。湧水は割れ目9から湿る程度で認められた。岩級区分は、割れ目9付近から東側は、割れ目間隔が概ね30cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・III・1)級と評価した。割れ目9付近から西側は、割れ目間隔が6~20cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CM(B・IV・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

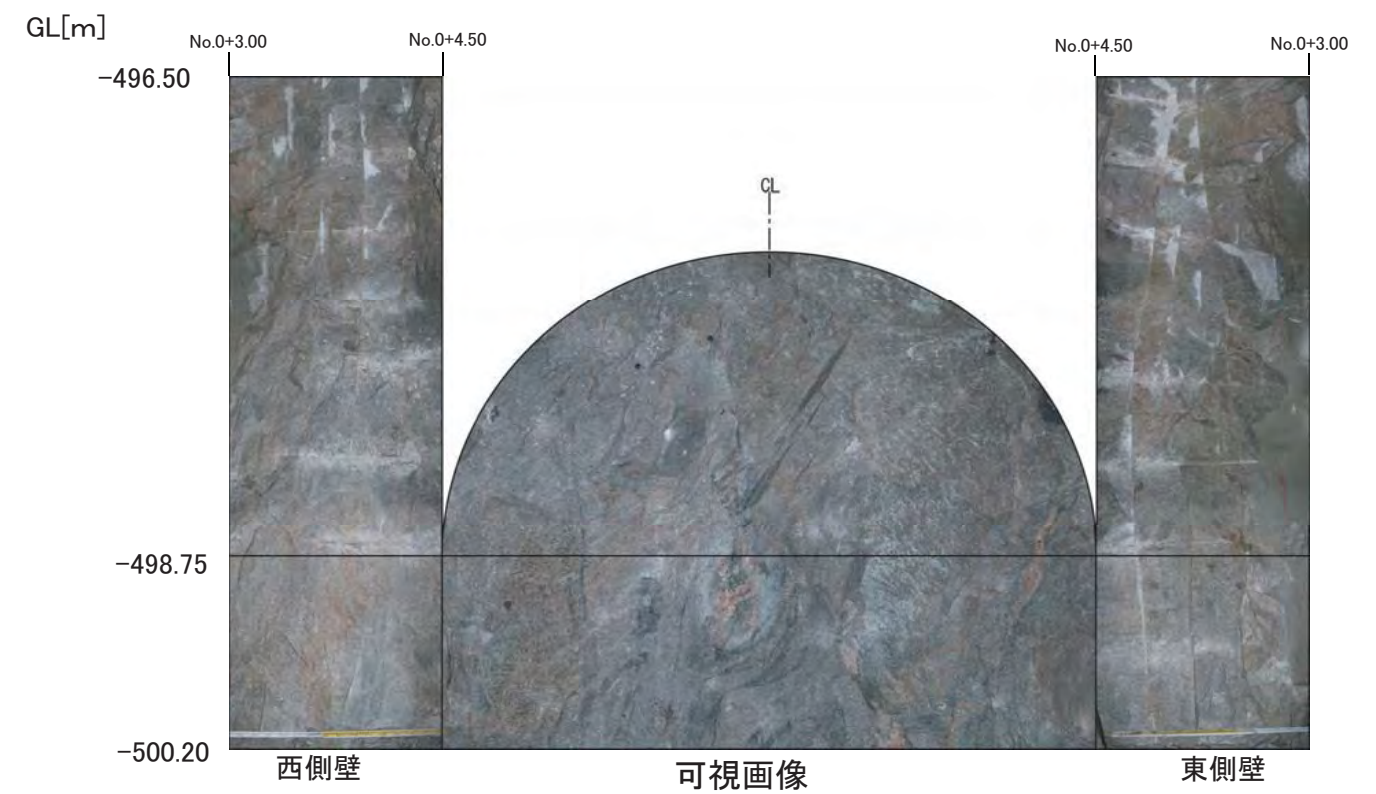
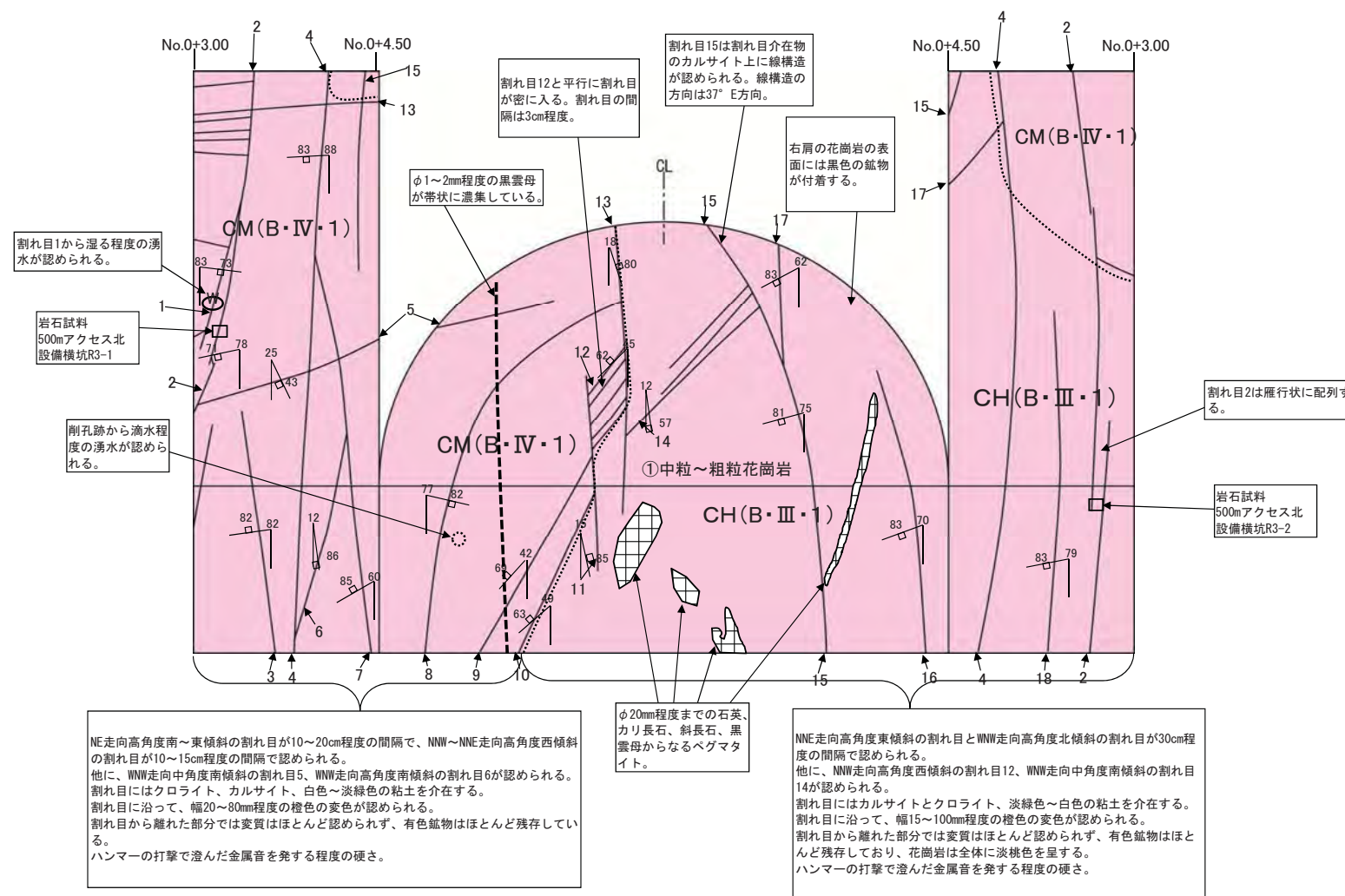
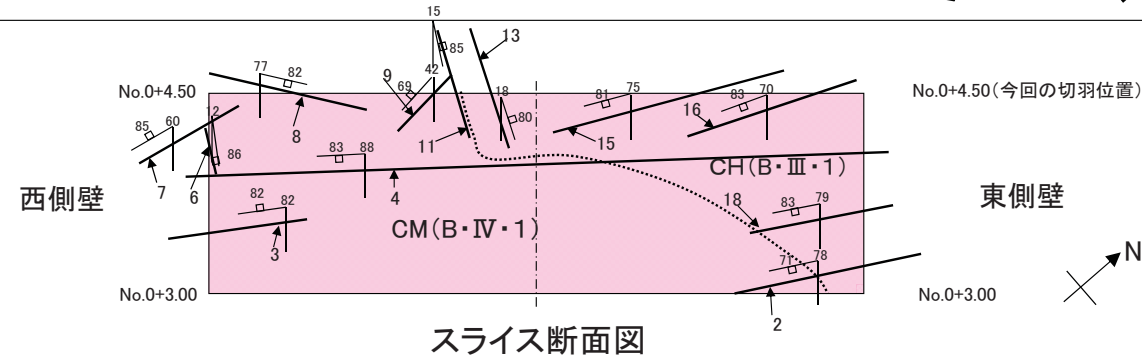
A5-請負-計測工(地質)-131018

シート番号	500mアクセス北 設備横坑3	日時	2013/10/18 14:00~15:30	位置・深度	500mアクセス北 設備横坑3 G.L. -496.5 m~G.L. -500.2 m	観察・撮影者	
-------	--------------------	----	---------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	割れ目	割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	湧水	ペグマタイト	黒雲母の濃集
----	-----	-----	----------	--------	----	--------	--------



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -496.5m~-498.75m CH/CM G.L. -498.75m~-500.2m CH/CM
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (橙色、淡桃色)	RMR値	G.L. -496.5m~-498.75m 54 G.L. -498.75m~-500.2m 59
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北設備横坑R3-1(花崗岩)、500mアクセス北設備横坑R3-2(花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	-
湧水	湿る程度		

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN49W方向である。横坑観察は切羽から1.5m離れた場所より目視観察を実施した。

岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々にφ10mm程度の大きさのカリ長石が認められる。鏡中央~右側にはφ20mm程度までの石英、カリ長石、斜長石、黒雲母からなるペグマタイトが認められる。

花崗岩は全体に変質の程度は弱いかほとんど認められず、黒雲母などの有色鉱物はほとんど残存している。

割れ目周辺の花崗岩は幅15~100mm程度で橙色を呈する。

割れ目の走向傾斜は、NE走向高角度南~東傾斜とNNW~NNE走向高角度西傾斜、NNE走向高角度東傾斜、WNW走向高角度北傾斜が主体で、他に、WNW走向中角度南傾斜、WNW走向高角度南傾斜が認められる。

割れ目15は介在物のクロライト上に線構造が認められたことから、せん断割れ目と判断した。

割れ目の介在物としては、カルサイト、クロライト、淡緑色~白色の粘土が認められた。湧水は割れ目1から湿る程度で認められた。

岩級区分は、割れ目10付近から東側は、割れ目間隔が概ね30cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・Ⅲ・1)級と評価した。割れ目10付近から西側は、割れ目間隔が10~20cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CM(B・Ⅳ・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

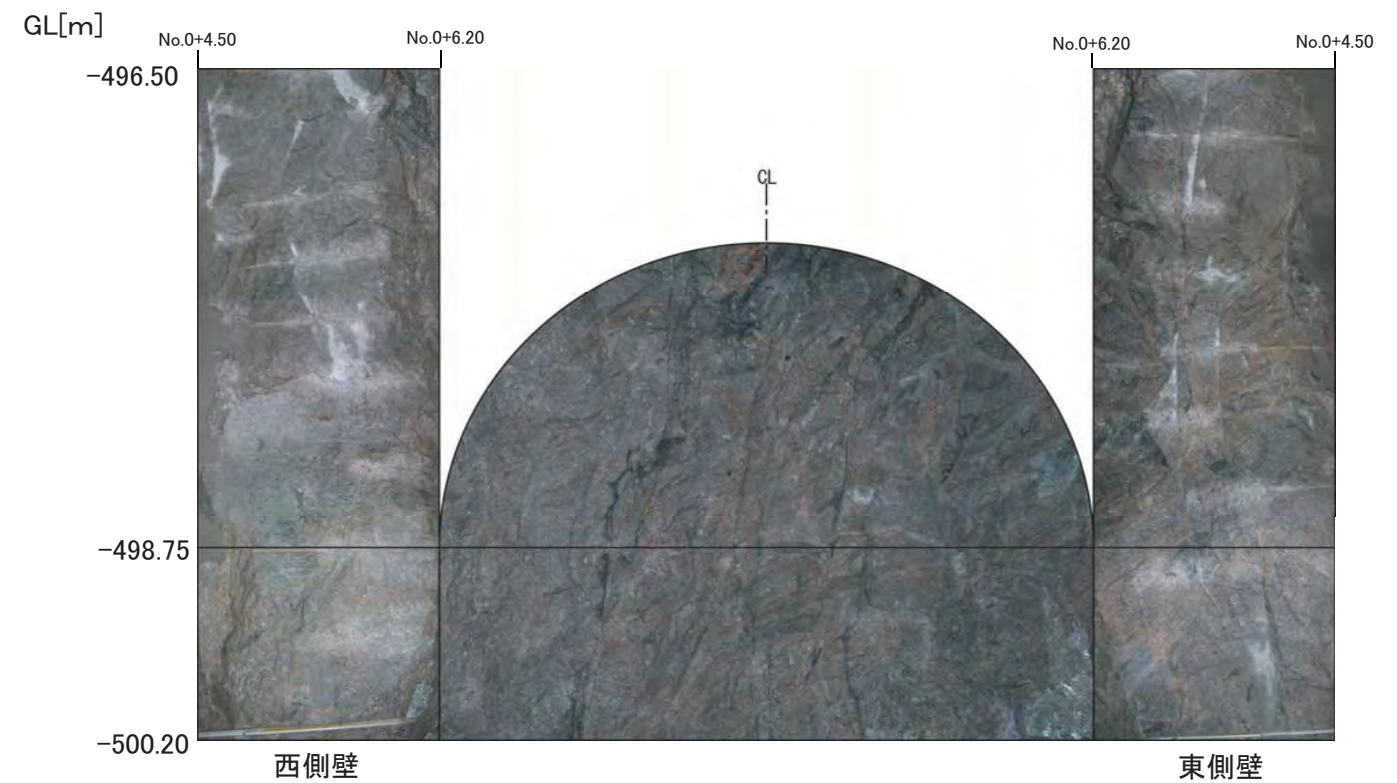
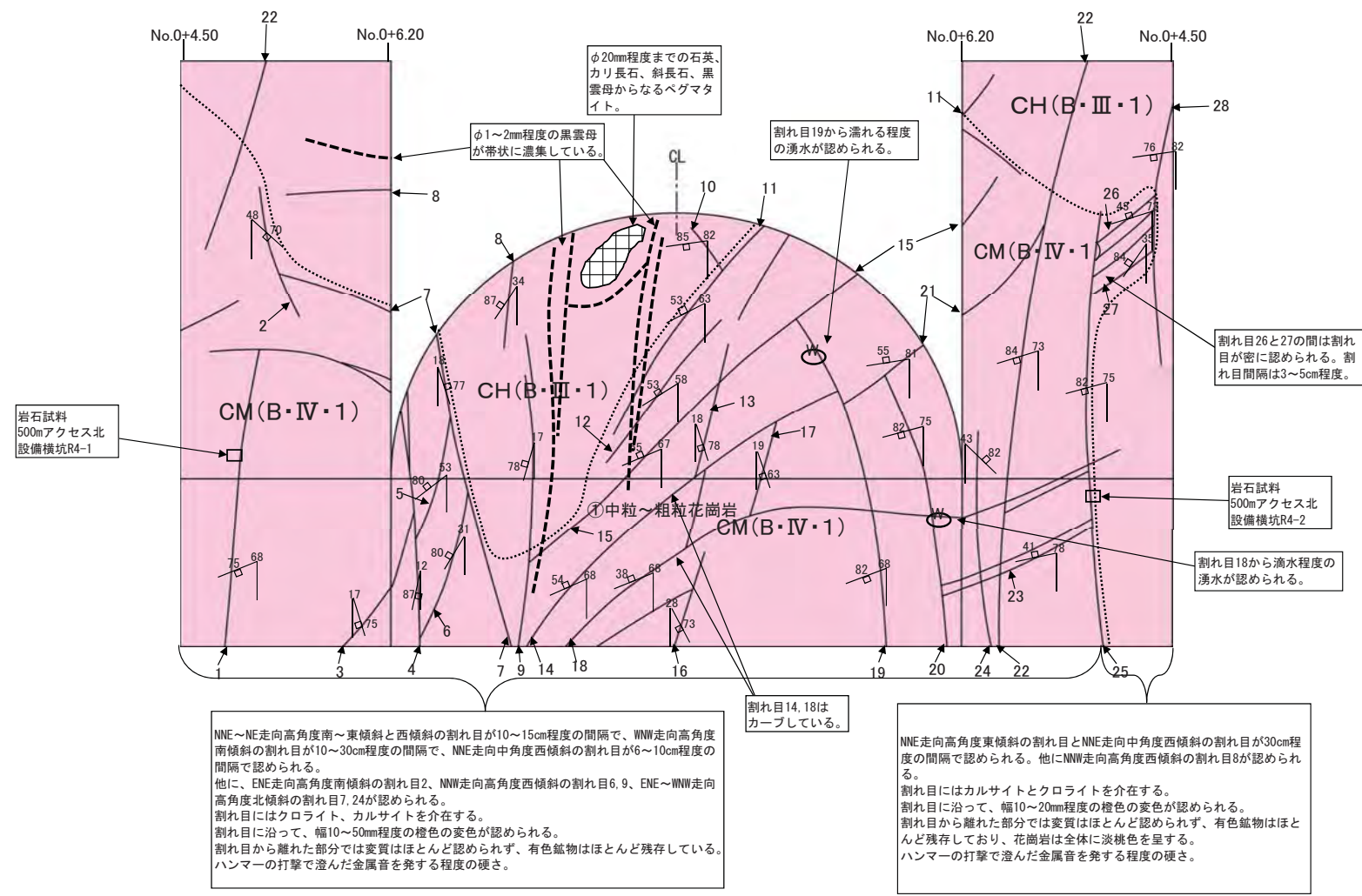
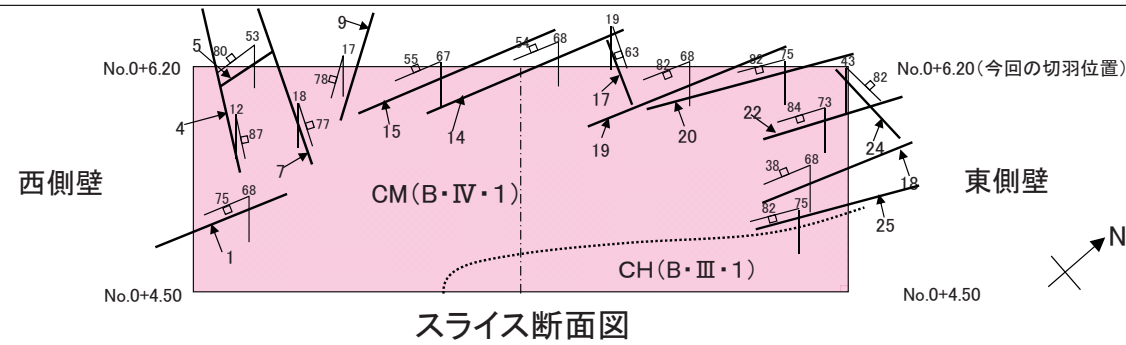
A5-請負-計測工(地質)-131019

シート番号	500mアクセス北 設備横坑4	日時	2013/10/19 14:00~15:30	位置・深度	500mアクセス北 設備横坑4 G.L. -496.5 m~G.L. -500.2 m	観察・撮影者	
-------	--------------------	----	---------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	割れ目	割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	湧水	ペグマタイト	黒雲母の濃集
----	-----	-----	----------	--------	----	--------	--------



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -496.5m~-498.75m CH/CM G.L. -498.75m~-500.2m CH/CM
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (橙色、淡桃色)	RMR値	G.L. -496.5m~-498.75m 56 G.L. -498.75m~-500.2m 53
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北設備横坑R4-1(花崗岩)、500mアクセス北設備横坑R4-2(花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	-
湧水	滴水程度		

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN49W方向である。横坑観察は切羽から1.7m離れた場所より目視観察を実施した。
 岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々にφ10mm程度の大きさのカリ長石が認められる。鏡中央にはφ20mm程度までの石英、カリ長石、斜長石、黒雲母からなるペグマタイトが認められる。
 花崗岩は全体に変質の程度は弱いかほとんど認められず、黒雲母などの有色鉱物はほとんど残存している。
 割れ目周辺の花崗岩は幅10~50mm程度が橙色を呈する。
 割れ目の走向傾斜は、NNE~NE走向高角度南~東傾斜と西傾斜、WNW走向高角度南傾斜およびNNE走向中角度西傾斜が主体で、他に、ENE走向高角度南傾斜、NNW走向高角度西傾斜、ENE~WNW走向高角度北傾斜が認められる。
 割れ目の介在物としては、カルサイト、クロライトが認められた。
 湧水は割れ目19から湿る程度で、割れ目18から滴水程度で認められた。
 岩級区分は、割れ目25付近から東側と鏡~西側壁の上部は、割れ目間隔が概ね30cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・III・1)級と評価した。割れ目25付近から西側は、割れ目間隔が10~20cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CM(B・IV・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

A5-請負-計測工(地質)-131022

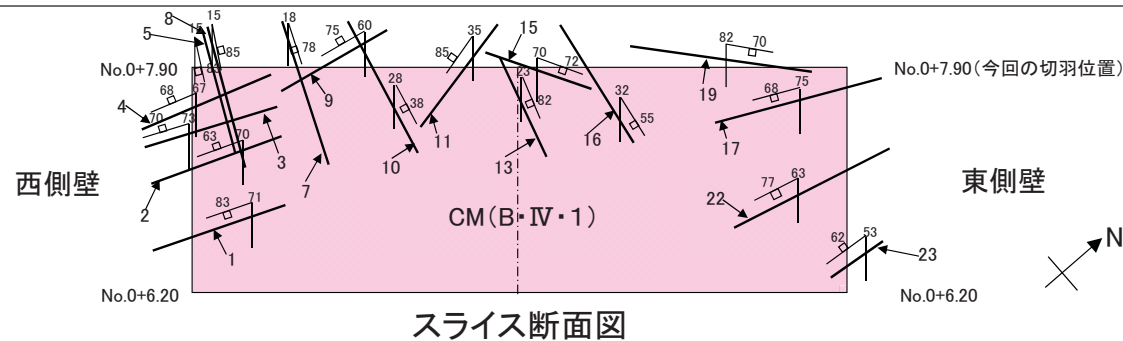
シート番号	500mアクセス北 設備横坑5	日時	2013/10/22 9:30~11:00	位置・深度	500mアクセス北 設備横坑5 G.L. -496.5 m~G.L. -500.2 m	観察・撮影者	
-------	--------------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

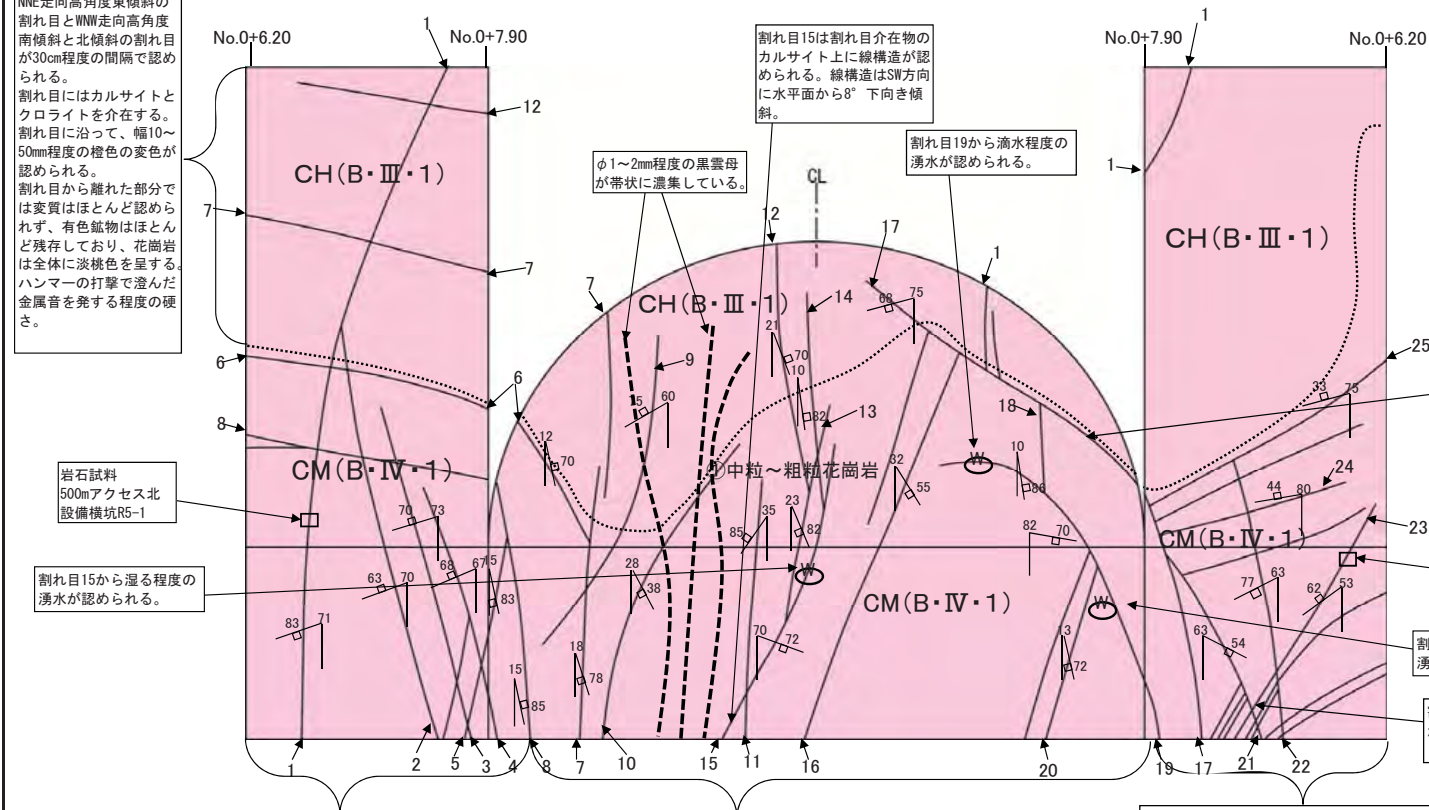
請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例

- 花崗岩
- 割れ目
- 70 割れ目の走向傾斜
- 岩級区分境界
- 湧水
- ペグマタイト
- 黒雲母の濃集



NNE走向高角度東傾斜の割れ目とWNW走向高角度南傾斜と北傾斜の割れ目が30cm程度の間隔で認められる。割れ目にはカルサイトとクロライトを介在する。割れ目に沿って、幅10~50mm程度の橙色の変色が認められる。割れ目から離れた部分では変質はほとんど認められず、有色鉱物はほとんど残存しており、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。



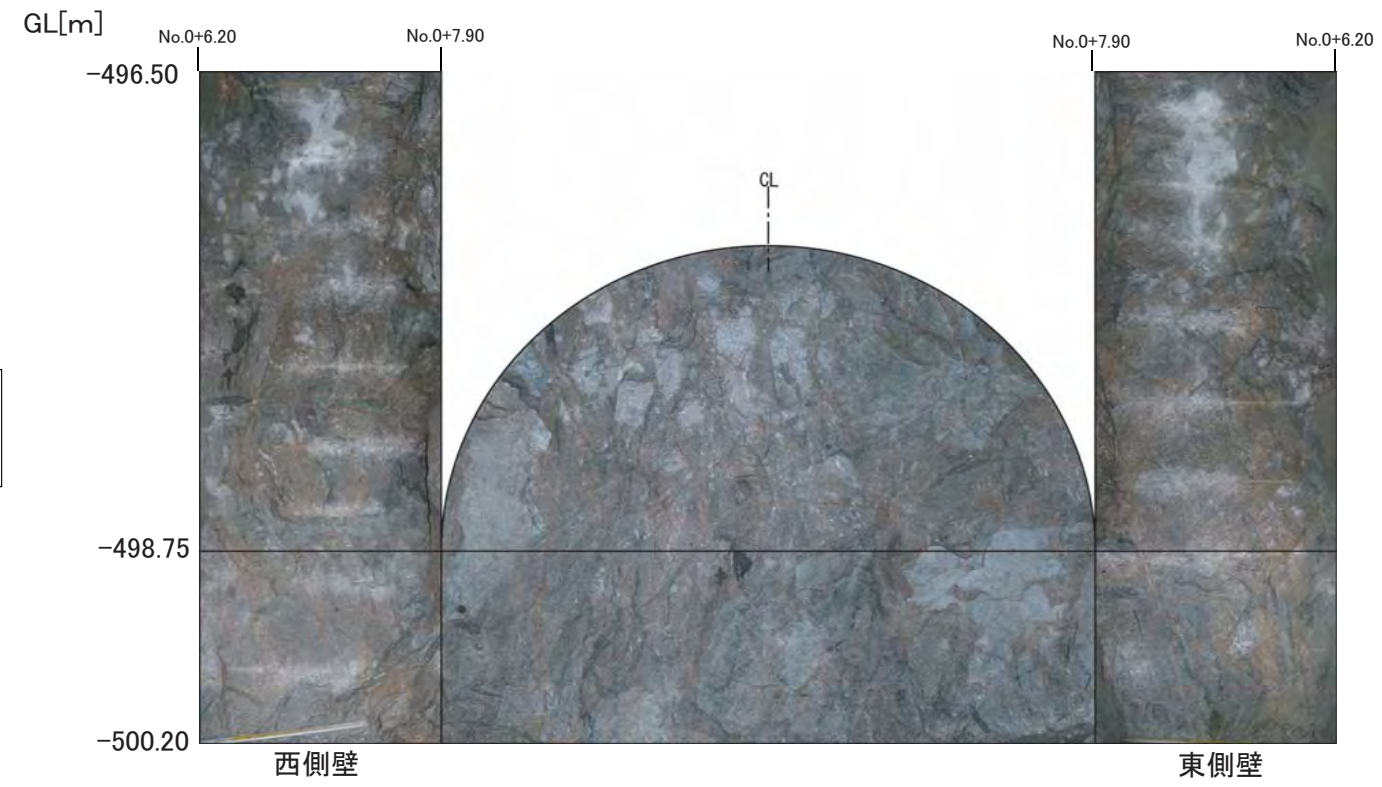
岩石試料
500mアクセス北
設備横坑R5-1

割れ目15から湿る程度の湧水が認められる。

NNE走向高角度東傾斜と西傾斜の割れ目が6~10cm程度の間隔で、WNW走向高角度南傾斜と北傾斜の割れ目が10~20cm程度の間隔で認められる。割れ目にはクロライト、カルサイトを介在する。割れ目に沿って、幅10~40mm程度の橙色の変色が認められる。割れ目から離れた部分では変質はほとんど認められず、有色鉱物はほとんど残存している。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

WNW走向高角度北傾斜と南傾斜の割れ目が10~20cm程度の間隔で認められる。他に、WNW走向中角度南傾斜の割れ目10、NNW走向高角度西傾斜の割れ目11、NE走向高角度南~東傾斜の割れ目15、17、19が認められる。割れ目にはクロライト、カルサイト、淡緑色の粘土を介在する。割れ目に沿って、幅10~50mm程度の橙色の変色が認められる。割れ目から離れた部分では変質はほとんど認められず、有色鉱物はほとんど残存している。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NE走向中角度西傾斜の割れ目が6~10cm程度の間隔で認められる。他に、ENE走向中角度南傾斜の割れ目21、NNE走向高角度東傾斜の割れ目22、NNE走向高角度西傾斜の割れ目23が認められる。割れ目にはカルサイトとクロライトを介在する。割れ目に沿って、幅10~20mm程度の橙色の変色が認められる。割れ目から離れた部分では変質はほとんど認められず、有色鉱物はほとんど残存しており、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。



可視画像

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -496.5m~-498.75m G.L. -498.75m~-500.2m	CH/CM CM
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (橙色、淡桃色)	RMR値	G.L. -496.5m~-498.75m G.L. -498.75m~-500.2m	58 54
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北設備横坑R5-1(花崗岩)、500mアクセス北設備横坑R5-2(花崗岩)	
変質	1~2	採水試料番号	-	
湧水	滴水程度			

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はM49W方向である。横坑観察は切羽から1.7m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々にφ10mm程度の大きさのカリ長石が認められる。花崗岩は全体に変質の程度は弱いほとんど認められず、黒雲母などの有色鉱物はほとんど残存している。割れ目周囲の花崗岩は幅10~50mm程度が橙色を呈する。割れ目の走向傾斜は、割れ目8付近から南側では、NNE走向高角度東傾斜と西傾斜および、WNW走向高角度南傾斜と北傾斜が主体。割れ目8付近から割れ目19付近までは、WNW走向高角度北傾斜と南傾斜が主体。割れ目19付近から東側では、NE走向中角度西傾斜が主体である。他に、WNW走向中角度南傾斜、NNW走向高角度西傾斜、NE走向高角度南~東傾斜、ENE走向中角度南傾斜、NNE走向高角度東傾斜、NNE走向高角度西傾斜が認められる。

割れ目15と17は、割れ目介在物に線構造が認められたことから、せん断割れ目と判断した。割れ目の介在物としては、カルサイト、クロライト、淡緑色の粘土が認められた。湧水は割れ目15から湿る程度で、割れ目19から滴水程度と湿る程度で認められた。岩級区分は、割れ目6付近および割れ目25付近から上部の切羽は、割れ目間隔が概ね30cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・III・1)級と評価した。割れ目6付近および割れ目25付近から下部は、割れ目間隔が6~20cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CM(B・IV・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

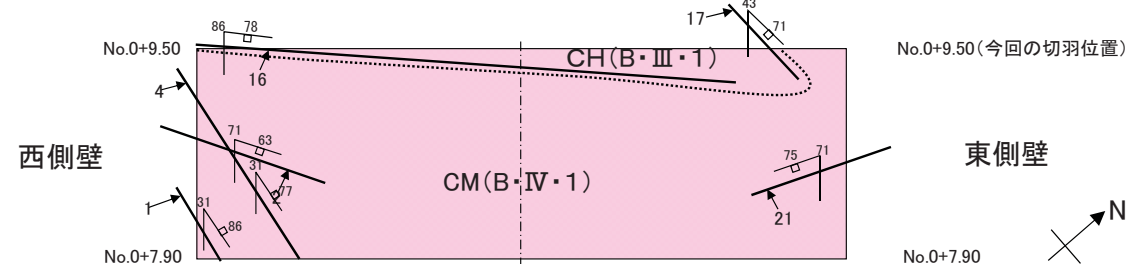
A5-請負-計測工(地質)-131023

シート番号	500mアクセス北 設備横坑6	日時	2013/10/23 17:30~19:00	位置・深度	500mアクセス北 設備横坑6 G.L. -496.5 m~G.L. -500.2 m	観察・撮影者	
-------	--------------------	----	---------------------------	-------	--	--------	--

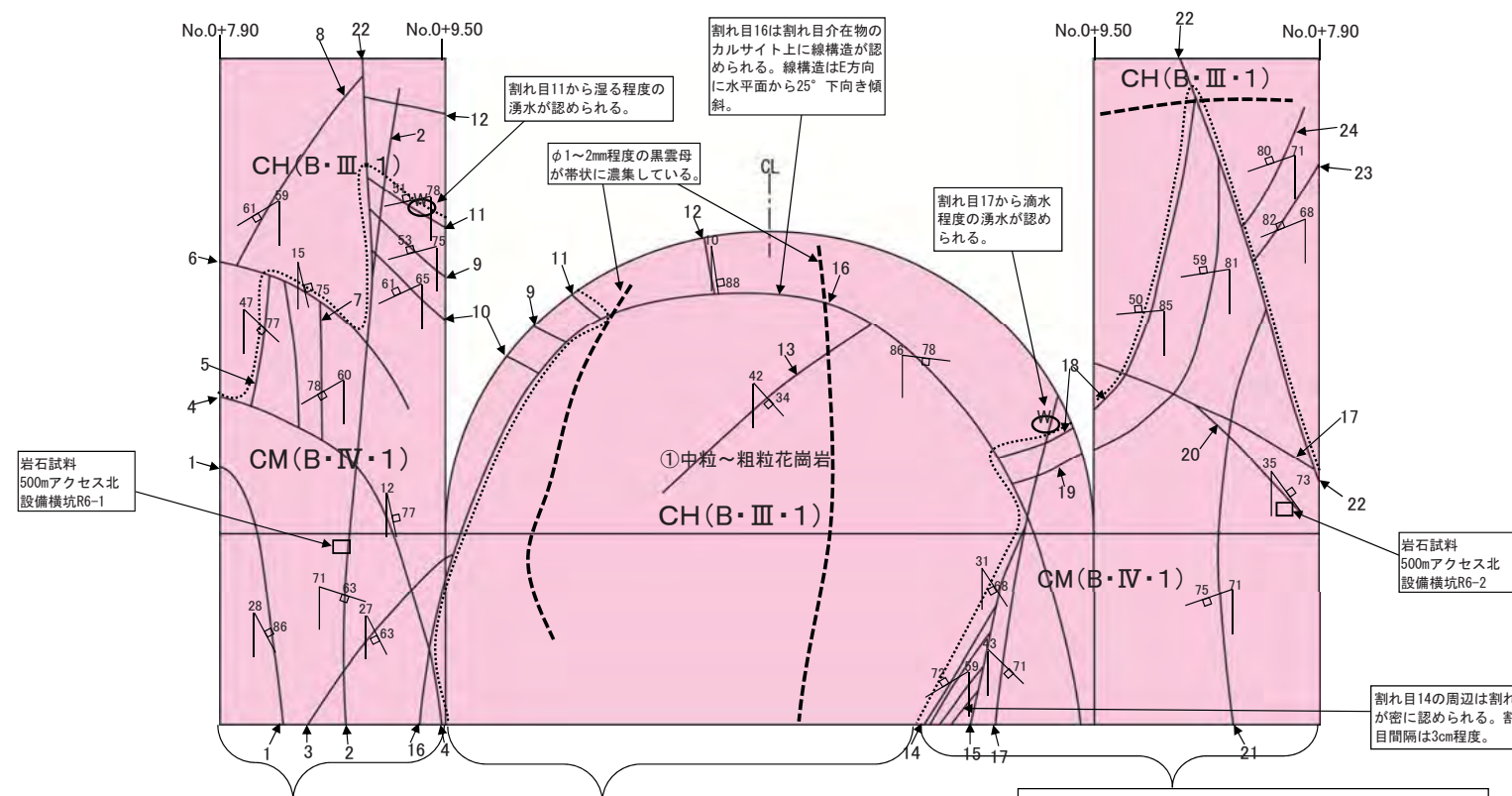
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

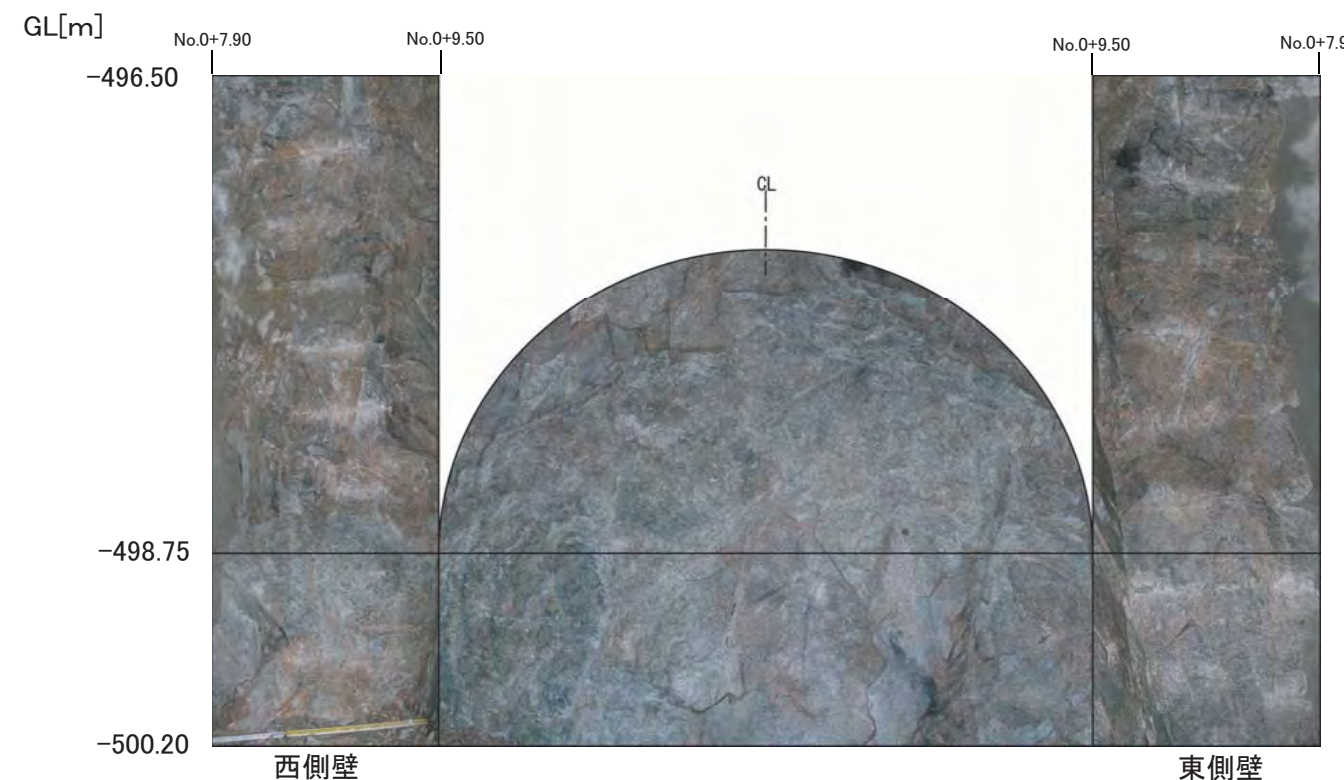
凡例	花崗岩	割れ目	割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	湧水	黒雲母の濃集
----	-----	-----	----------	--------	----	--------



スライス断面図



スケッチ



可視画像

NE走向高角度南傾斜の割れ目と、WNW~ENE走向高角度南傾斜と北傾斜の割れ目が10~20cm程度の間隔で認められる。他に、NNE走向中角度西傾斜の割れ目9, 10, 11が認められる。割れ目にはクォーライト、カルサイト、淡緑色の粘土を介在する。割れ目に沿って、幅10~70mm程度の橙色の変色が認められる。割れ目から離れた部分では変質はほとんど認められず、有色鉱物はほとんど残存している。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NNE~NE走向高角度東~南傾斜の割れ目が30cm程度の間隔で認められる。他に、NW走向高角度北傾斜の割れ目12やENE走向中角度南傾斜の割れ目13が認められる。割れ目にはカルサイトとクォーライト、淡緑色の粘土を介在する。割れ目に沿って、幅10~50mm程度の橙色の変色が認められる。割れ目から離れた部分では変質はほとんど認められず、有色鉱物はほとんど残存しており、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NNE走向中~高角度西傾斜の割れ目が6~10cm程度の間隔で、WNW~ENE走向高角度南傾斜の割れ目が10~20cm程度の間隔で認められる。他に、NE走向高角度南~東傾斜の割れ目16, 21, 22が認められる。割れ目にはカルサイトとクォーライト、淡緑色の粘土を介在する。割れ目に沿って、幅10~50mm程度の橙色の変色が認められる。割れ目から離れた部分では変質はほとんど認められず、有色鉱物はほとんど残存しており、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -496.5m~-498.75m CH/CM G.L. -498.75m~-500.2m CH/CM
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (橙色、淡桃色)	RMR値	G.L. -496.5m~-498.75m 58 G.L. -498.75m~-500.2m 56
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北設備横坑R6-1(花崗岩)、500mアクセス北設備横坑R6-2(花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	-
湧水	滴水程度		

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はM49W方向である。横坑観察は切羽から1.6m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々にφ10mm程度の大きさのカリ長石が認められる。花崗岩は全体に変質の程度は弱いかほとんど認められず、黒雲母などの有色鉱物はほとんど残存している。割れ目周辺の花崗岩は幅10~70mm程度が橙色を呈する。割れ目の走向傾斜は、割れ目14付近から西側では、NNE~NE走向高角度東~南傾斜、WNW~ENE走向高角度南傾斜と北傾斜が主体で認められる。割れ目14付近から東側では、NNE走向中~高角度西傾斜と、WNW~ENE走向高角度南傾斜が主体で認められる。他に、NW走向高角度北傾斜やENE走向中角度南傾斜が認められる。

割れ目16は、割れ目介在物に線構造が認められたことから、せん断割れ目と判断した。割れ目の介在物としては、カルサイト、クォーライト、淡緑色の粘土が認められた。湧水は割れ目11から湿る程度、割れ目17から滴水程度で認められた。岩級区分は、割れ目16付近から割れ目17付近までの間は、割れ目間隔が概ね30cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・Ⅲ・1)級と評価した。割れ目16付近から西側と割れ目17付近から東側は、割れ目間隔が6~20cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CM(B・Ⅳ・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

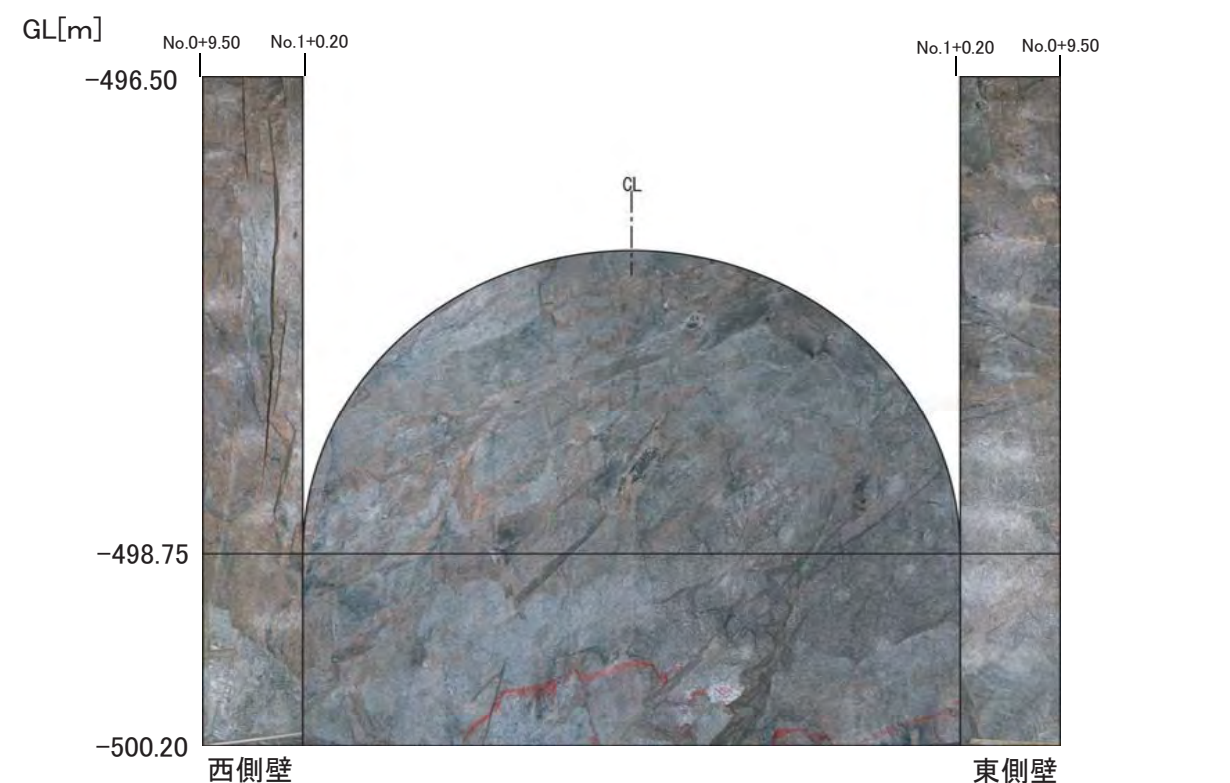
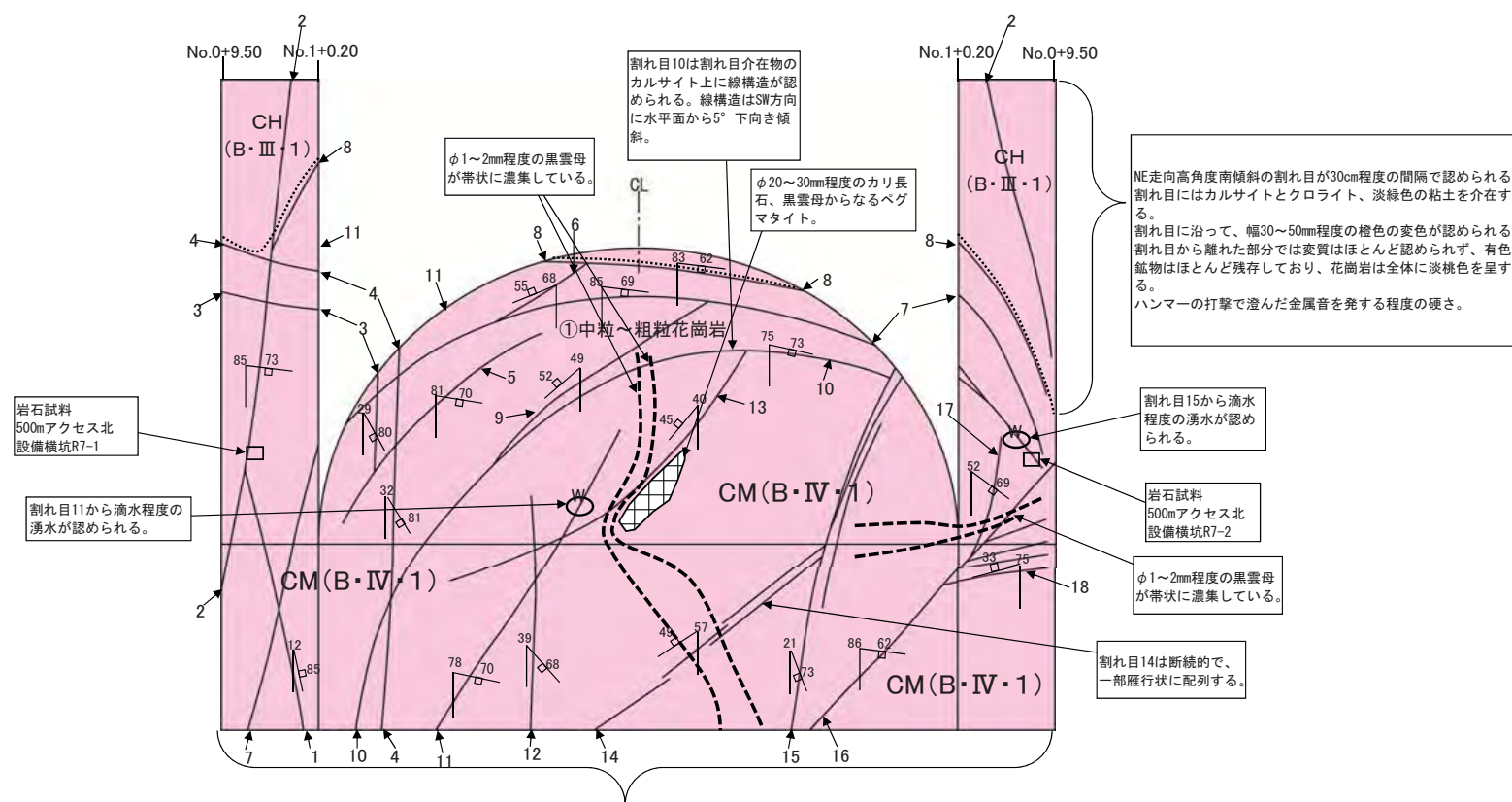
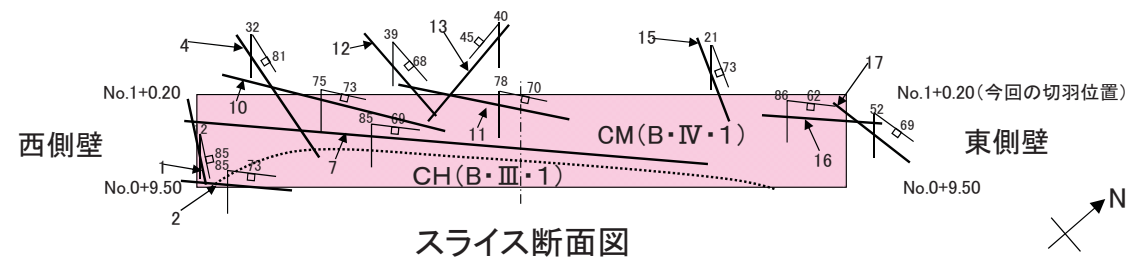
A5-請負-計測工(地質)-131024

シート番号	500mアクセス北 設備横坑7	日時	2013/10/24 17:30~19:00	位置・深度	500mアクセス北 設備横坑7 G.L. -496.5 m~G.L. -500.2 m	観察・撮影者	
-------	--------------------	----	---------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	割れ目	割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	湧水	黒雲母の濃集	ペグマタイト
----	-----	-----	----------	--------	----	--------	--------



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -496.5m~-498.75m CH/CM G.L. -498.75m~-500.2m CM	特 記 事 項	<p>当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はM49W方向である。横坑観察は切羽から0.7m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々にφ10mm程度の大きさのカリ長石が認められる。また、鏡の中央にはφ20~30mm程度のカリ長石、黒雲母からなるペグマタイトが認められる。花崗岩は全体に変質の程度は弱いほとんど認められず、黒雲母などの有色鉱物はほとんど残存している。割れ目周辺の花崗岩は幅5~70mm程度が橙色を呈し、鏡左側が右側と比べて橙色化が強い。割れ目の走向傾斜は、WNW走向高角度北傾斜と南傾斜、NE走向高角度南傾斜が主体で、他に、NNE~NNW走向中角度西傾斜が認められる。</p> <p>割れ目10は、割れ目介在物に線構造が認められたことから、せん断割れ目と判断した。割れ目の介在物としては、カルサイト、クォーライト、淡緑色の粘土が認められた。湧水は割れ目11と割れ目15から滴水程度で認められた。岩級区分は、割れ目8付近から南東側は、割れ目間隔が概ね30cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・Ⅲ・1)級と評価した。割れ目8付近から北西側は、割れ目間隔が10~20cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CM(B・Ⅳ・1)級と評価した。</p>
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (橙色、淡桃色)	RMR値	G.L. -496.5m~-498.75m 58 G.L. -498.75m~-500.2m 56		
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北設備横坑R7-1(花崗岩)、500mアクセス北設備横坑R7-2(花崗岩)		
変質	1~2	採水試料番号	-		
湧水	滴水程度				